

⑥ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

二ひきの馬が、まどのところでごうるぐうるとひるねをしていました。すると、すずしい風がでてきたので、一ぴきがくしやめをしてめをさしました。ところが、あとあしがいっぱんしびびれていたので、よろよろとよろけてしまいました。

「おやおや。」
そのあしに力をいれようとしても、さっぱりはいりません。

そこでともだちの馬をゆりおこしました。

「たいへんだ、あとあしをいっぱん、だれかにぬすまれてしまった。」

「だって、ちゃんといっているじゃないか。」

「いやこれはちがう。だれかのあしだ。」

「どうして。」

「ぼくの思うままに歩かないもの。ちよっとこのあしをけとばしてくれ。」

そこで、ともだちの馬は、ひづめでそのあしをぽおんとけとばしました。

「やつぱりこれはぼくのじゃない、いたくないもの。ぼくのあしならいたいはずだ。よし、はやく、ぬすまれたあしをみつけてこよう。」

そこで、その馬はよろよろと歩いてゆきました。

「やア、いすがある。いすがぼくのあしをぬすんだのかもしれない。よし、けとばしてやろう、ぼくのあしならいたいはずだ。」

馬はかたあしで、いすのあしをけとばしました。椅子は、いたいとも、なんともいわないで、こわれてしまいました。

馬は、テーブルのあしや、ベッドのあしを、ぽんぽんけつてまわりました。けれど、どれもいたいといわなくて、こわれてしまいました。

いくらさがしてもぬすまれたあしはありません。

「ひよっとしたら、あいつがとつたのかもしれない。」と馬は思いました。そこで、馬はともだちの馬のところへかえってきました。そして、すきをみて、ともだちのあとあしをぽおんとけとばしました。

するとともだちは、

「いたいッ。」

ときけんでとびあがりました。

「そおらみる、それがぼくのあしだ。きみだろう、ぬすんだのは。」

「このとんまめが。」

ともだちの馬は力いっぱいけかえしました。しびれがもうなあっていたので、その馬も、

「いたいッ。」

と、とびあがりました。
そして、やつとのことで、じぶんのあしはぬすまれたのではなく、しびれていたのだとわかりました。

※くしやめ・・・くしやみ

あとあし・・・後ろ足

【新美南吉「あし」】

物語文 登場人物・理由

問1

「よし、はやく、ぬすまれたあしをみつけてこよう。」と、馬は様々な足をけつて探しました。けつたものを四つ書き出しましょう。

① ()

② ()

③ ()

④ ()

問2

「そおらみる、それがぼくのあしだ。きみだろう、ぬすんだのは。」と、友達の馬がぬすんだとかんちがいしました。なぜでしょう。

ア 前にも、足をぬすまれたことがあったから。
イ けると、「いたいッ。」と、さけんで

とびあがったから。

ウ 見た目が自分の足とそっくりだったから。

エ 友達の馬がぬすんでいるところを

見ていたから。

登場人物

物語の中に出てくる人のこと。物語の中でひとのように動いたり、考えたりする生き物やものも、登場人物（人物）という。

理由

考えや主張のもとになるもの。「どうしてかという」との部分で、事実や、筆者の体験などによって示されることが多い。

⑥ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

二ひきの馬が、まどのところでごうるぐうるとひるねをしていました。すると、すずしい風がでてきたので、一ぴきがくしやめをしてめをさしました。ところが、あとあしがいっぱんしびびれていたので、よろよろとよろけてしまいました。

「おやおや。」

そのあしに力をいれようとしても、さっぱりはいりません。

そこでもだちの馬をゆりおこしました。

「たいへんだ、あとあしをいっぱん、だれかにぬすまれてしまった。」

「だって、ちゃんといってるじゃないか。」

「いやこれはちがう。だれかのあしだ。」

「どうして。」

「ぼくの思うままに歩かないもの。ちよっとこのあしをけとばしてくれ。」

そこで、ともだちの馬は、ひづめでそのあしをぽおんとけとばしました。

「やつぱりこれはぼくのじゃない、いたくないもの。ぼくのあしならいたいはずだ。よし、はやく、ぬすまれたあしをみつけてこよう。」

そこで、その馬はよろよろと歩いてゆきました。

「やア、いすがある。いすがぼくのあしをぬすんだのかもしれない。よし、けとばしてやろう、ぼくのあしならいたいはずだ。」

馬はかたあしで、いすのあしをけとばしました。椅子は、いたいとも、なんともいわないで、こわれてしまいました。

馬は、テーブルのあしや、ベッドのあしを、ぽんぽんけつてまわりました。けれど、どれもいたいといわなくて、こわれてしまいました。

いくらさがしてもぬすまれたあしはありません。

「ひよっとしたら、あいつがとつたのかもしれない。」と馬は思いました。そこで、馬はともだちの馬のところへかえってきました。そして、すきをみて、ともだちのあとあしをぽおんとけとばしました。

するとともだちは、

「いたいッ。」

とさけんでとびあがりました。

「そおらみろ、それがぼくのあしだ。きみだろう、ぬすんだのは。」

「このとんまめが。」

ともだちの馬は力いっぱいけかえしました。しびれがもうなあっていたので、その馬も、

「いたいッ。」

と、とびあがりました。そして、やつとのことで、じぶんのあしはぬすまれたのではなく、しびれていたのだとわかりました。

※くしやめ・・・くしやみ あとあし・・・後ろ足

【新美南吉「あし」】

物語文 場面・中心人物

問1

「よし、はやく、ぬすまれたあしをみつけてこよう。」と、馬は様々な足をけつて探しました。けつたものを四つ書き出しましょう。

① () いすのあし

② () テーブルのあし

③ () ベッドのあし

④ () ともだちのあとあし

問2

「そおらみろ、それがぼくのあしだ。きみだろう、ぬすんだのは。」と、友達の馬がぬすんだとかんちがいしました。なぜでしょう。

ア 前にも、足をぬすまれたことがあったから。
イ けると、「いたいッ。」と、さけんで

とびあがったから。

ウ 見た目が自分の足とそっくりだったから。

エ 友達の馬がぬすんでいるところを

見ていたから。

イ